

秋田県立大学 図書館だより



No. 8 2004.1

》》》》》》》》》 目次 《《《《《《《《《

転機に立つ公立大学図書館 図書・情報委員会委員	住田 友文 ……………	1
知識に飢えたときのこと システム科学技術学部図書館運営委員会委員	徐 粒 ……………	3
図書館からのお知らせ		5
利用案内：論文を探す 研究紀要ポータルについて		6
春季休業期間中の図書館利用案内		8



転機に立つ公立大学図書館

図書・情報委員会委員 住田 友文

(システム科学技術学部経営システム工学科教授)

公立大学は、国立大学の独法化に呼応して早晩その設置運営形態が検討されましょう。その際、公立大学図書館はどのような役割を果たすべきでしょうか。役目柄からも図書館愛好者としても、このことが念頭から離れない昨今です。本稿では、図書館に関する筆者の原体験、大学図書館についての所感、公立大学図書館への期待をオムニバスのように述べさせていただきます。

1. 半世紀前の一地方高校図書館で

一昨冬、入試業務で仙台へ行ったときのことです。試験監督を終えてホテルへの帰途、片平丁界隈で立ち寄った古書店地下の奥まった所に坪内逍遙訳「沙翁（シェークスピア）全集」の

内の数冊を発見しました。装丁が私の高校図書館にあったものと同じ印象的なライトブルーの小型版なので直ぐ目に留まりました。これを契機に、当時の図書のいくつかが鮮やかに思い出されました。科学随筆「ガモフ全集」やフェアブル「昆虫記」、シートン「動物記」などです。

これらは大きな部屋の壁側に開架されておりましたが、装丁が旧バージョンと同様なものでしたから、美術的にも鑑賞して楽しいものでした。生徒は読書好きが多く、「ガモフ全集」などは借りるのに順番待ちが大変でした。そこで一般生徒より多く借りられる図書部員になったものです。私の高校は、原爆で灰燼に帰した歴史のある旧制中学の後身でしたが、今にしてみると、

当時あのように立派な装丁の本をどのようにして集め得たのかとても有難い恩恵を感じます。また貴重な図書を収容する「図書館」も平屋でしたが教室棟から独立した建物でした。記憶に残っている往時のこの図書館は、小さいながらも多感な時代の大きな夢を育む揺籃でした。

2. 今日の大学図書館

その後、学生時代に利用した大学図書館は、建物の外見も風格がありましたが、蔵書の内容や冊数は桁違いに充実しており、まさに「万巻の書は庫にあり」の観がありました。また、四半世紀前に数ヶ月間研究滞在したハーバード大学の中央図書館は、さらに輪をかけたもので、視聴覚関係などの進んだ資料も整備されていました。このような総合大学の図書館は、学生のあらゆる知的好奇心や研究者の専門的必要を充たさんとして発展してきました。

70年前の Ranganathan の著書では、「図書館は成長する有機体」という法則が述べられています。これは、図書館が絶えず変化する技術環境や社会状況に適應するよう努力すべきことを示唆していると解されます。その約半世紀後に Line は、(少なくとも) 大学図書館はこの法則を守っていないという見解を示し、やや冗談風に「成長する巨大な墓」とも言いました。これは、大学図書館が長年にわたって客観的な評価をほとんど受けない環境の中で運営されてきた結果を揶揄したものでしょう。

わが国の大学図書館は、学生の教育・学習支援と教員の研究支援を役割としてきました。しかし今、大学図書館を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。そのひとつは、大学設置主体の財政難に起因する図書館経費の抑制でしょう。加えて、研究に必要な海外学術雑誌(ジャーナル) 購入費は増嵩しております。その結果、世の中の多様化する情報需要とは裏腹に図書購入費の圧迫を余儀なくされております。

一方では、大学人の図書館離れが懸念されています。学生は、稀に図書館へ行っても主に自習の場としてスペースを利用するのが目立つようになっております。教員は、これまで紙の図書や学術雑誌を主な対象とした研究支援やレファレンスサービスを受けてきました。しかし最近、自らインターネットで電子ジャーナルを検索し、図書館に赴く機会が減りつつあります。

こうした状況のなかで、大学図書館の機能変革が求められております。ひとつは情報通信技術を取りこんだ情報提供基盤の整備であり、もうひとつは提供する情報のコンテンツの充実です。これらはサプライサイドに立ったもので、多くの識者が指摘するところと同感です。加えて筆者は、特に公立大学図書館について、デマンドサイドからの視点を提案したいと思います。

3. 明日の公立大学図書館

今後、公立大学の設置運営形態の変更により、付属図書館がどのような余波を受けるのかは、にわかに計れないものがあります。しかし、公立大学がその設置者から「教育の場・研究の場」に加えて、これまで以上に「地域貢献の場」としての役割を期待されることは自明です。総合大学が全方位型であるのに対し、公立大学は、その地域の要望に沿った分野に特化した型である場合が多くみられます。したがって、その付属図書館も大学人に対するサービスは同様に特化しております。

しかし、一般の地域貢献向けには、これまで必ずしも十全に情報蓄積がなされてきませんでした。これに対処するのが喫緊と考えられます。具体的対処策の参考になるのが、公共図書館によるビジネス支援の動向です。筆者は本学赴任前から、こうした研究プロジェクトに関わってきました。

公共図書館は一般市民の情報需要にサービスしてきました。数年前イギリスの地域経営政策を調査するために訪れた大英図書館では、そのサービスの威力を実感しました。アメリカでは、ニューヨーク公共図書館がビジネス図書館として最先端にあります。このように超有名な世界的図書館は別格として、内外のローカル公共図書館でも、それぞれ地域情報の蓄積に力を注いできました。地域に根ざしたビジネスサービスを行っている例としてコネチカット州シムズブリー公共図書館などが有名です。

このコンセプトを公立大学図書館に適用するには、しかるべき工夫と相応の財政的措置が必要となります。公立大学もその付属図書館もマネジメントの力が問われる季節を迎えています。

ひるがえって本学の「図書館」を見ますと、単に本を取り扱うことだけではなく、キャンパスの中心にあって多面的な資料とサービスを提

供する場であるという意味で、開学のとき以来「図書・情報センター」の名称になっております。このサービスに一層の地域貢献が求められ

ましよう。その有力候補として「ビジネス支援」が挙げられます。具体策を真剣に検討しなければならない時期にきていると言えます。



知識に飢えたときのこと

システム科学技術学部図書館運営委員会委員 徐 粒

(システム科学技術学部電子情報システム学科助教授)

「文革」あるいは「文化大革命」を耳にしたことがあるであろうか。文革は、1966年から76年までの10年間、中国全土で巻き起こっていた“空前絶後”の政治運動である。映画“ラストエンペラー”の、腕章をした「紅衛兵」が溥儀(Fu Gi)を批判する場面がまさに文革の典型的な場面である。

文革がもたらした被害は、伝統文化の破壊、知識人の弾圧及び教育の崩壊などである。文革の発端は中国共産党内の権力闘争であったが、文革を嵐のように全国に広げたのは、当時の大学生や高校生及び中学生が主体となる紅衛兵であった。毛沢東の「造反有理(権力者や上層部に対する反乱には道理がある)」の呼びかけに応え、全国の学生が、「停课鬧*革命(授業をやめて革命に加わる)」を行い、「紅司令(毛沢東のこと)」を防衛する紅衛兵運動を起こした。紅衛兵への支持を表明するため毛沢東が天安門広場で八回にわたって全国からの1300万人の紅衛兵を接見したことなどは、その運動の凄まじさを物語っている。

紅衛兵運動のおかげで、全国の小中学校、高校、大学では、たちまち授業が完全に取りやめになり混乱状態に陥った。先生達はひどい批判や迫害を受けた。また、非革命的であるとして伝統や文化的なものほとんどすべては破壊あるいは禁止された。図書館もすべて封鎖され、ほとんどの書籍は読むこと自体が禁止された。やがて、毛沢東の鶴の一声で「復課鬧革命(学校に戻って革命を行う)」が始まり、授業は形式上回復した。しかし、そのときは“教育と労働の結合”の方針の下で、学制が短縮され、英語、歴史、生物などほとんどの科目は廃止され、代わりに内燃機関の原理や農産物の作り方など

を教える工業基礎や農業基礎のような実利的な教科ばかりが設けられた。また大学の入試は廃止され、高校を卒業しても大学に入れず、ほとんどの卒業生は「知識青年」として、農村に「下放(長期にわたって農山村や農場で肉体労働を行う)」させられた。大学に入学できたのは工場や農村、軍から政治的な基準で推薦された人達だけであった。その経緯から、この時期の大学生は「工農兵大学生」と呼ばれている。このような状況は10年間も続いて、全国で下放した知識青年は約1623万人といわれている。

文革が始まったとき、私は小学校4年生で、ちょうど本を読むことの楽しさを覚え始め、本が読みたくてたまらない時期であった。しかし、上に述べたように学校での授業もなくなり、公に読める本は全くなかった。本を隠して持っている人もいたが、絶対に信頼できる仲間でないと危なくて貸し借りできない状況であった。

父が教員で母が医者であったため、家の中には本が沢山あった。しかし父は知識人として批判の対象とされ、自宅に押し掛けてきた紅衛兵により本を含め価値のありそうなものが何もかもほとんど持ちさられた。母の数冊の医学本が残ったのは救いであった。小学生の私には意味は分からなかったが、それらの本を何回も何回も読んでいた。内容はともかく、活字が書いてありさえすればよいのであった。運よく、ぼろぼろの「連環画(日本の漫画と違って、ストーリーがより写實的に絵に描かれその下に説明が書かれた小さい絵本)」や小説を仲間から借りることができたときには、それこそ何もかも忘れて文字通り全身全霊でその本に没頭していた。そのとき感じた束の間の至福の気分は、今になっ

て考えてみれば、社会が悲劇的な状況におかれていたことの裏返しであった。

高校卒業後には、私も知識青年の一員として下放させられ、2年間の農作業に従事させられた。そのときの将来に対する不安と自分の運命に対する無力感はいまも鮮明に思い出すことができる。どうしてもこのまま一生を過ごすのはいやだ、何かをやらなければならないといつも思っていた。当時は楽器やスポーツをやるのが流行っていたが、私はいろいろ考えて英語を勉強することに決めた。毎朝早く起きて川辺で英語を読んだり、単語を覚えたりした。

そのときの忘れがたいエピソードが二つある。一つは、英語教師をやっていた父の友人から、文革前の英語教材のレコードと手回し式の蓄音機を貸してもらったときのことである。その蓄音機は回転速度が狂っていて、男性の声が女性のように聞こえた。初めてそれを耳にした私は、そのことに全く気がつかず、女性のような高い声を出す発音を一生懸命に真似して練習していた。ところがある日、村の小学校に電動式のレコードプレーヤーがあることを知り、そのレコードを掛けてみたら、いきなり普通の男性の声が聞こえた。このときは本当にショックであった。

もう一つは、村人達の中に広まっていた私自身についてのうわさである。都会からきたあの学生は頭がおかしくて、毎日部屋にこもって「我他媽」、「我他媽」(Wo Ta Ma と発音。人を罵るときに使われる言葉、日本語の“クソ”、“畜生”とかに近い)と叫んでいるとのうわさであった。最初は何のことか思い当たらなかった。後で分かったときには笑いを禁じえなかった。英語教材にはなぞなぞのテキストがあり、“I have a round face, a long hand and a short hand, … What am I?”と書かれていた(答えは時計)。“What am I”が“我他媽”のように聞こえたのである。

そんな状況の中でも勉強をあきらめなかった。おかげで、1977年に回復された文革後初めての大学入試に合格することができた。また1986年大学院修士2年生のときには英語の選抜試験で日本留学のチャンスを手に入れることができた。

ときどき、自分が幸か不幸かを考えるが、結局は分からない。ほとんど大学に入れなかった

同世代の人と比べると、大学入学も留学も“最終便”ではあるが乗ることができた。しかし私が大学に入ったときは22歳であった。日本に留学したのは30歳、後の若者と比べ、10年間の貴重な時間が失われていた。

思いつくまま書いてきた。学生諸君には、日本ほど衣食の心配や社会制度の障害がなく平和で安心して勉強できる環境は世界を見渡しても見つからないこと、現在でも世界には勉強をしたくてもできない人々が大勢いることをわかって欲しい。また、自分の人生は自分の努力のみによって切り開けるものであることを自覚して欲しい。もしこの短文が諸君の勉強意欲を起こすのに少しでも役立てば望外の喜びである。

*聞(ドウ、ニョウ):身を打ち込んで一つのことをやる意。

— 図書館からのお知らせ —

図書配置を変更しました～秋田キャンパス

12月24日～26日の特別整理により、

1階の中央部にあった、[芸術・スポーツ・言語・文学] の分野を、2階に移動しました。

英語の Graded Reader は、今までどおり1階にあります。

移動により空いた1階のスペースには、雑誌バックナンバーを配架します。

☆移動期間中の御協力ありがとうございました。

雑誌の合冊製本について

昨年度に引き続き、夏季休業期間中に雑誌の合冊製本を行いました。

種類と冊数は次のとおりです。

秋田キャンパス：142種 406冊

本荘キャンパス：299種 700冊

今回対象となったのは、2000年度に発行された号です。今後も年度毎に順次実施する予定です。ご協力ありがとうございました。

製本された雑誌も未製本のものと同様に貸出できます。

OUP (Oxford University Press) オンラインジャーナルの利用終了

国立情報学研究所 (N I I) 提供の O U P 刊行電子ジャーナルの利用は、平成15年12月末日をもって終了しました。

情報コンセントをご利用の方へ

～パソコンのセキュリティ対策について～

図書館では個人のパソコンを持ち込んで、閲覧機の情報コンセントに接続して利用することができますが、コンピュータウィルス、ワーム等による被害を避けるため、以下のセキュリティ対策を心がけて利用して下さい。

★ウィルス対策ソフトを必ずインストールし、ウィルス情報を常に最新の状態にしておくこと。

★OSやブラウザを常に最新の状態にしておくこと。

セキュリティ対策が施されていないパソコンを学内ネットワークに接続することにより、ウィルス等の感染被害が起こる可能性があります。

皆様のご協力をお願いいたします。

利用案内……論文を探す

学術論文を検索するツールとして、これまで「雑誌記事索引」や「Current Contents」等の利用方法について案内しましたが、今回は国立情報学研究所（NII）の「研究紀要ポータル」を紹介します。

研究紀要ポータルについて

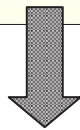
国立情報学研究所（NII）が提供する文献情報サービスの一つで、日本国内の大学や研究機関等が刊行する紀要に掲載された文献情報を検索することができます。

検索結果画面から Webcat で所蔵館を検索できること、該当文献が掲載されている号の目次、一部の文献の抄録や本文の表示が可能であることが特徴となっています。

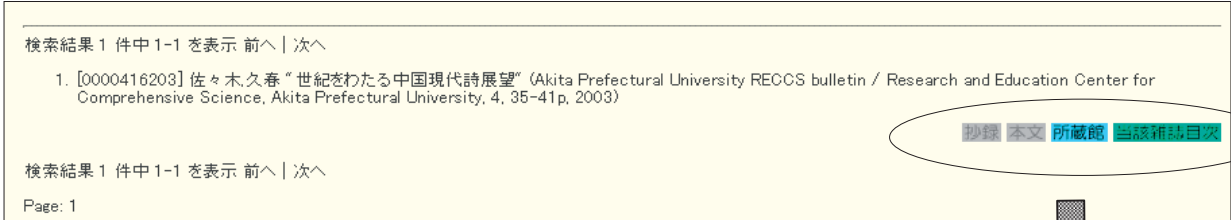
URL <http://kiyo.nii.ac.jp>

〔 検索例 〕

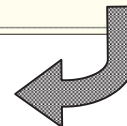
論文名・著者名・著者の所属機関・雑誌の書誌情報から検索します。



論文名に入っているキーワードで検索し、下画面の結果が出ました。



検索結果の右下にあるアイコンをクリックすることによって、文献の関連情報を表示することができます。



春季休業期間中の図書館利用案内

今年度の春季休業は2/11(水)～4/10(土)です。
開館時間と学生、大学院生への貸出冊数が通常期とは異なりますので
ご注意ください。

◆開館時間

平日 9:00～17:00(17:00～22:00無人開館)
土・日・祝日 9:00～17:00(終日無人開館)
(2月27日(金)は館内整理日のため、9:00～17:00閉館、
17:00～22:00無人開館となります。)

◆資料の貸出について

* 学生・院生

- ・1月28日(水)～4月3日(土)までに貸出された図書、AV資料の返却期限日は4月19日(月)です。
- ・貸出点数(図書・AV資料の合計)
学生:10点まで 院生:15点まで
※雑誌の貸出冊数、期間は通常期と同じです。

* 教職員

通常期と同じです。

◆土・日・祝日はコピー機の利用はできません。

秋田県立大学 図書館だより No.8 2004年1月発行

秋田県立大学 図書・情報センター URL:<http://www.akita-pu.ac.jp/library/lib.html>

●秋田キャンパス

〒010-0195

秋田市下新城野字街道端西 241-7

TEL018-872-1561 FAX018-872-1674

E-mail:a_library@akita-pu.ac.jp

●本荘キャンパス

〒015-0055

本荘市土谷字海老ノ口 84-4

TEL0184-27-2049 FAX0184-27-2185

E-mail:h_library@akita-pu.ac.jp

*ご意見・ご要望等をお寄せください。